

### 運用先市場の状況

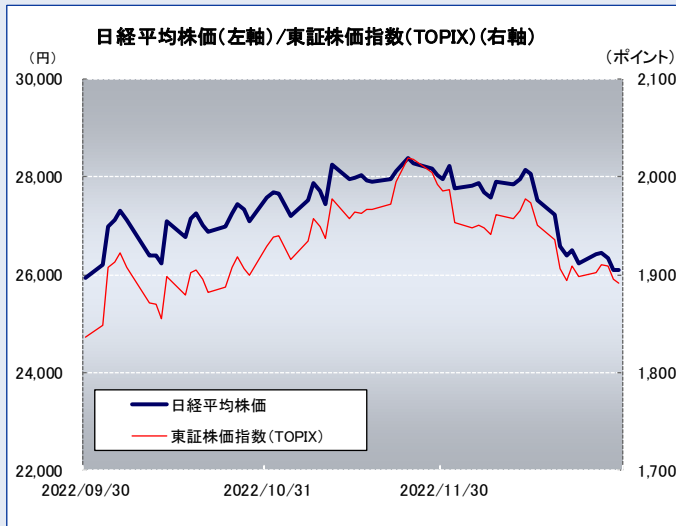
## 国内株式市場および国内債券市場 2022年10月~12月

作成基準日 2022年12月30日

### ○国内市場

#### ・株式市場

10~12月を通して見ると、国内株式市場は上昇しました。  
 10月、国内株式市場は上昇しました。英国政府の所得税減税案撤回に加え、米国での利上げペース減速期待や国内での大型経済対策の決定がプラスに働きました。  
 11月も上昇しました。米国で物価指標が予想比下振れたことでインフレがピークアウトして利上げペースが鈍化するとの期待が広がり、日本株にもプラス要因になりました。また、訪日外国人の増加から、インバウンドや経済再開関連の銘柄にも注目が集まりました。  
 12月は下落しました。月前半はもみ合いで推移しましたが、月後半は米国で金融当局が政策金利見通しを上方修正したことや経済指標が悪化したことなどから、軟調な展開となりました。さらに、日銀が金融政策決定会合において予想に反し10年国債利回りの許容変動幅を拡大したことにより急速な米ドル安・円高が進み、下落要因になりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

#### ・債券市場

10~12月を通して見ると、国内の長期金利(10年国債利回り)は上昇(債券価格は下落)しました。  
 10月、長期金利は概ね横ばいとなりました。下旬に欧米中央銀行のタカ派姿勢が和らぐとの観測を受けて、長期金利は低下しました。しかし、日銀の国債買入れ増額や金融緩和政策の維持を受け、月末にかけて上昇幅を縮小しました。  
 11月も、長期金利は概ね横ばいとなりました。米国の物価指標が予想比下振れたことを受けて欧米金利が低下したことから、国内金利は一時低下基調となりました。しかし、日銀の金融緩和政策修正に懐疑的な見方も根強く、月末にかけて国内金利は上昇しました。  
 12月、長期金利は上昇しました。日銀が金融政策決定会合で市場の予想に反し長期金利の許容変動幅を拡大したことから、長期金利は急上昇しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月~金) 9:00~20:00 土日9:00~17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

- 当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。
- 当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- 当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

### 運用先市場の状況

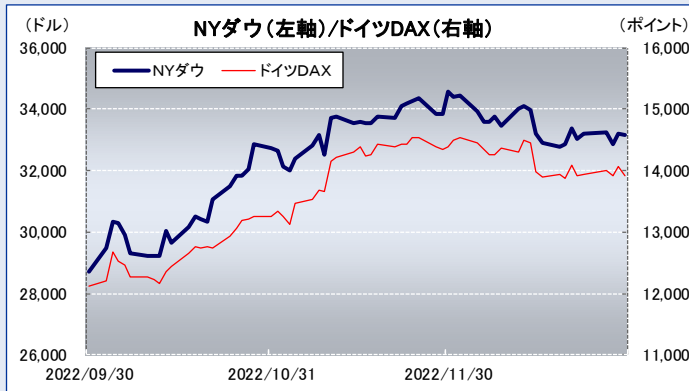
## 外国株式市場、外国債券市場および為替市場 2022年10月~12月

作成基準日 2022年12月30日

### ○外国市場

#### ・株式市場

10~12月を通して見ると、欧米ともに中央銀行による利上げが続いたものの上げ幅が縮小されたことなどから、株式市場は上昇しました。  
 10月、米国株式市場は上昇しました。インフレへの警戒感が薄らいだことや、金融や資本財など大手主要企業の決算内容は堅調との見方などから、上昇しました。  
 11月も、米国株式市場は上昇しました。物価指標が予想比下振れたことを受け、上昇しました。  
 12月、米国株式市場は下落しました。金融当局による将来の政策金利予想が引き上げられ、株価の下押し要因になりました。  
 欧州株式市場も、期を通じて見ると上昇しました。利上げ幅の縮小、英国で政治的不透明感が薄らいだこと、暖冬予報などからエネルギー危機に対する懸念が和らいだなどが、株式市場の下支えになりました。

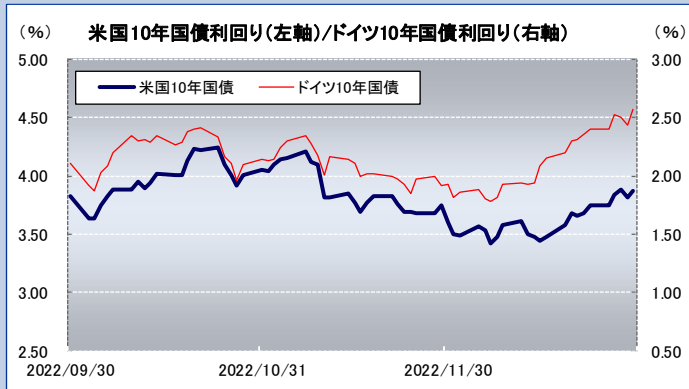


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



#### ・債券市場

10~12月を通して見ると、欧米の長期金利(10年国債利回り)は上昇(債券価格は下落)しました。  
 10月、米国の長期金利は上昇しました。利上げが当面続けられるとの見方から、金利は上昇しました。  
 11月、米国の長期金利は低下しました。物価指標が予想比下振れたことを受け、金利は低下しました。  
 12月、米国の長期金利は上昇しました。金融当局による将来の政策金利予想が引き上げられたことや、日銀が長期金利の許容変動幅を拡大した影響などから、金利は上昇しました。  
 ユーロ圏でも、期を通じて見ると長期金利は上昇しました。米金利の上昇、ECBの利上げ継続などが影響しました。

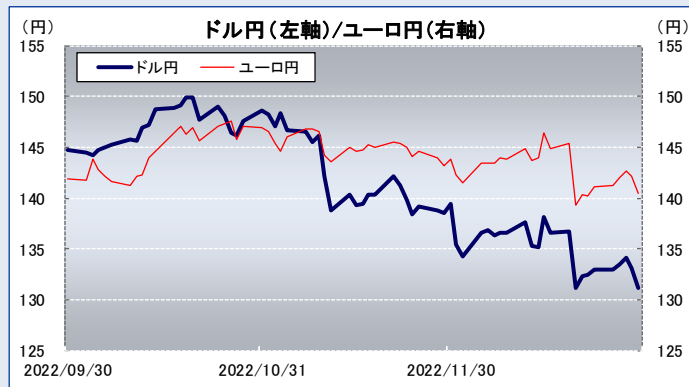


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



### ○為替市場

10~12月を通して見ると、米ドル、ユーロともに対円で下落しました。  
 10月、米ドル高・円安となりました。日米金利差の拡大から、米ドル高・円安が加速しました。ただし、日銀が円買いの為替介入を行ったことなどから、円安に歯止めがかかりました。  
 11月、米国での利上げペースが鈍化するとの観測などから、米ドル安・円高となりました。  
 12月も、米ドル安・円高となりました。日銀が長期金利の許容変動幅を拡大したことから、日米金利差の縮小観測が広がり、米ドル安・円高が進みました。  
 ユーロ/円も、期を通じて見ると、ユーロ安・円高となりました。欧州での利上げペース減速や日銀の金融緩和策の修正から、ユーロ安・円高となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月~金) 9:00~20:00 土日9:00~17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

- 当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。
- 当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- 当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。